いつも何度でも

本調子

四
工
合
四
工
合
四
工
合
四
○
四

中
工
中
上
工
上
四
中
四
老
○
老

乙
老
四
合
四
中
尺
○
上
四
上
○
四

中
工
中
上
工
上
四
乙
老
合
○
合

※

乙
老
四
合
四
中
尺
○
上
四
工
合

四
○
中
工
合
工
合
工
五
工
尺
中
合
中

合
中
尺
中
上
四
○
四
乙
老
四
上
○
中
上
中

上
○
中
工
合
工
合
工
五
工
尺
中
合
中

合
中
上
四
乙
老
四
合
四
上
中
上
合
上

四
工
合
四
工
合
四
工
合
四
○

※エンディング

合
乙
老
四
合
四
○
老
乙
老
四
合
○

四
乙
老
四
合
四
中
尺
○
上
四
○

いつも何度でも

本調子

一、呼んでいる胸のどこか奥で
いつも心踊る夢を見たい
悲しみは数えきれないけれど
その向こうできっとあなたに会える
繰り返すあやまちのそのたびひとは
ただ青い空の青さを知る
果てしなく道は続いて見えるけれど
この両手は光を抱ける

二、さよならのときの静かな胸
ゼロになるからだが耳をすませる
生きている不思議死んでいく不思議
花も風も街もみんなおなじ
ララ　ラ　ラ　ラ　ラララ
ラ　ラ　ラ　ララララ
ホホ　ホ　ホ　ホ　ホホホホ
ルン　ルン　ルン　ルルルルル

三、呼んでいる胸のどこか奥で
いつも何度でも夢を描こう
悲しみの数を言い尽くすより
同じくちびるでそっとうたおう
閉じていく思い出のその中にいつも
忘れたくないささやきを聞く
こなごなに砕かれた鏡の上にも
新しい景色が映される

四、はじまりの朝の静かな窓
ゼロになるからだ充たされてゆけ
海の彼方にはもう探さない
輝くものはいつもここに
わたしのなかに見つけられたから